

## 講義要項

科目	基礎解剖生理学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・60時間
概要	人体の構造と機能および生命維持のメカニズムを学び、解剖学・生理学などの基礎医学について円滑に学習が進められるよう、人体理解の基礎を身につける。		
目標	1. 人体の構造について名称・位置が説明できる 2. 人体において重要な役割を持つ部分について、その機能が説明できる 3. ある行動について、働いている部位・名称と機能を総合的に考察できる		
教科書	サイエンスビュー生物総合資料 実教出版 日本人体解剖学 上下 南山堂 生理学テキスト 文光堂 基礎運動学 医歯薬出版株式会社		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	細胞の一般的構造	講義
2	核の構造とDNA	講義
3	遺伝子とタンパク合成	講義
4	生体膜の構造	講義
5	膜を通した物質輸送・膜電位の発生①	講義
6	膜を通した物質輸送・膜電位の発生②	講義
7	細胞のシグナル伝達	講義
8	細胞骨格と細胞運動①	講義
9	細胞骨格と細胞運動②	講義
10	組織の成り立ち	講義
11	人体の基本構造・構成と系統別の機能	講義
12	身体機能と構造①(神経系の基礎) 神経の構造と働き	講義
13	身体機能と構造①(神経系の基礎) 神経の構造と働き	講義
14	身体機能と構造①(神経系の基礎) 運動単位	講義
15	身体機能と構造①(神経系の基礎) 反射・反応	講義
16	身体機能と構造①(神経系の基礎) 反射・反応	講義
17	身体機能と構造①(神経系の基礎) 感覚	講義
18	身体機能と構造①(神経系の基礎) 感覚・伝導路	講義
19	身体機能と構造②(循環器系) 構造と働き	講義
20	身体機能と構造②(循環器系) 構造と働き	講義
21	身体機能と構造③(呼吸器系) 構造と働き	講義
22	身体機能と構造③(呼吸器系) 構造と働き	講義
23	身体機能と構造④(運動器系) 構造と働き	講義
24	身体機能と構造④(運動器系) 筋の特性	講義
25	身体機能と構造⑤(運動器系) 運動制御のメカニズム	講義
26	身体機能と構造⑥(運動器系) 運動制御のメカニズム	講義
27	身体機能と構造⑦(消化器・泌尿器系) 構造と働き	講義
28	身体機能と構造⑦(消化器・泌尿器系) 構造と働き	講義
29	身体機能と構造⑧(代謝) エネルギーとは	講義
30	身体機能と構造⑧(代謝) エネルギー産生メカニズム	講義

## 講義要項

科目	解剖学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・2単位・60時間
概要	<p>疾病・障害を診るためには、人体の正常な構造を理解する必要がある。解剖学では、特に循環器・神経系の構造について学ぶ。さらに、呼吸器・消化器・泌尿生殖器・内分泌に属す器官の構造を学び、これらの器官が人間の動きの中でどのような役割を果たしているかを併せて学習する。</p>		
目標	<p>循環器・神経系の構造を各論的に学ぶと共に、内臓に属している各器官の構造と機能的役割を把握し、人体機能に関する知識を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 循環器系に属している器官の名称をあげ、構造を説明できる</li> <li>2. 神経系に属している器官の名称をあげ、構造を説明できる</li> <li>3. 内臓に属している各器官の名称をあげ、構造を説明できる</li> </ol>		
教科書	<p>日本人体解剖学 上下巻 改訂19版 南山堂 組織学総論 東京農工大学出版会</p>		
参考書			
学習評価	<p>筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。</p>		
備考			

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	解剖学総論(人体の構成;細胞・組織・器官・系統)	講義
2	循環器系①(動脈、静脈、毛細血管、血液、組織液、リンパの関係)	講義
3	循環器系②(心臓の構造)	講義
4	循環器系③(心臓の構造)	講義
5	循環器系④(心筋の特性、心臓の神経)	講義
6	循環器系⑤(動脈系、静脈系、リンパ系の構造)	講義
7	循環器系⑥(動脈系、静脈系、リンパ系の構造)	講義
8	呼吸器系①(総論、肺循環)	講義
9	呼吸器系②(上気道に属している器官の構造)	講義
10	呼吸器系③(下気道に属している器官と肺の構造)	講義
11	消化器系①(口腔内での消化、咀嚼)	講義
12	消化器系②(食道と胃の構造)	講義
13	消化器系③(小腸と大腸の構造)	講義
14	消化器系④(肝臓と胆嚢、膵臓の構造)	講義
15	消化器系⑤(肝臓と胆嚢、膵臓の構造)	講義
16	泌尿器系①(総論・腎臓の構造)	講義
17	泌尿器系②(尿管、膀胱、尿道の構造)	講義
18	生殖器系①(男性生殖器の構造)	講義
19	生殖器系②(女性生殖器の構造)	講義
20	内分泌系(内分泌腺の構造と構成)	講義
21	神経系①(中枢神経系の構造)	講義
22	神経系②(中枢神経系の構造)	講義
23	神経系③(中枢神経系・伝導路)	講義
24	神経系④(中枢神経系・伝導路)	講義
25	神経系⑤(中枢神経系・伝導路)	講義
26	神経系⑥(末梢神経系の構造)	講義
27	神経系⑦(末梢神経系・頸神経叢、腕神経叢)	講義
28	神経系⑧(末梢神経系・腰神経叢、仙骨神経叢)	講義
29	断層解剖①	講義
30	断層解剖②	講義

## 講義要項

科目	運動機能解剖学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・60時間
概要	理学療法士として人を見る為には、人体の正常な形態、構造、機能を理解する必要がある。 運動機能解剖学では、解剖学の中でも特に運動に関する骨・関節・筋・靭帯・神経の名称、位置、形態、構造、作用等について学ぶ。 さらに、解剖の理解に合わせて人間が行う基本的な運動の中でどのように機能しているか学ぶ。		
目標	骨・関節・筋・神経の形態、構造を理解すると共に、体幹・上肢・下肢の骨・関節・筋・神経が運動の中でどのように機能しているかを学び、 運動に関する解剖と機能が説明できる。 1. 運動を表現する用語を適切に使用できる 2. 運動に関する解剖の名称、位置、形態、構造、作用が説明できる 3. 運動に関する解剖の機能を説明できる 4. 動作・疾患から必要な運動機能解剖が説明できる 5. 各運動機能解剖を結びつけて考えられる		
教科書	日本人体解剖学(上下巻) 南山堂 基礎運動学 医歯薬出版 筋骨格系のキネシオロジー 医歯薬出版		
参考書	機能解剖学的触診術 メディカルビュー		
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考	予習・復習を必須とし、規定の予習・事前課題を行ってこないものは講義に参加する権利はない。 グループワークを主体とするため、ワーク内で発言をしないものは講義に参加する権利はない		

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション 総論Ⅰ:骨 関節 靭帯	講義
2	総論Ⅰ:骨 関節 靭帯	講義
3	総論Ⅱ:筋 神経	講義
4	総論Ⅱ:筋 神経	講義
5	総論 確認テスト まとめ	講義
6	動作・疾患提示 下肢	講義
7	下肢 骨盤帯 機能解剖	講義
8	下肢 股 機能解剖	講義
9	下肢 股 機能解剖	講義
10	下肢 膝 機能解剖	講義
11	下肢 膝 機能解剖	講義
12	下肢 足 機能解剖	講義
13	下肢 足 機能解剖	講義
14	まとめ	講義
15	下肢 確認テスト まとめ	講義
16	動作・疾患提示 体幹(脊柱・頭・胸郭)	講義
17	体幹 脊柱 機能解剖	講義
18	体幹 脊柱 機能解剖	講義
19	体幹 胸郭 機能解剖	講義
20	体幹 頭 機能解剖	講義
21	体幹 確認テスト まとめ	講義
22	動作・疾患提示 上肢	講義
23	上肢 肩 機能解剖	講義
24	上肢 肩 機能解剖	講義
25	上肢 肘 機能解剖	講義
26	上肢 手 機能解剖	講義
27	上肢 確認テスト まとめ	講義
28	各運動機能解剖のまとめ(発表)	講義
29	各運動機能解剖のまとめ(発表)	講義
30	まとめ	講義

## 講 義 要 項

科目	体表解剖学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・実習1単位・45時間
概要	<p>模型と人体に実際に触れて、心臓・主要な動脈、末梢神経、骨格筋、骨、関節・靭帯の触診をした上で説明できる。                  頭頸部・脊柱・四肢の骨格筋の起始と停止・走行・作用・支配神経・髄節について位置関係を解剖学と比較、確認する。                  併せて、横断面と骨格筋・骨・末梢神経・血管の位置関係を確認する。                  理学療法における視診・触診の目的を捉えたうえで実施できる。</p>		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法における視診・触診の目的を説明できる</li> <li>2. 触診の方法を習得し、不快感なく触ることができる</li> <li>3. 骨のランドマーク・関節を触診できる</li> <li>4. 筋の走行を説明し触診ができる</li> <li>5. 動静脈の走行を説明し・脈拍を触診できる</li> <li>6. 靭帯の走行を説明し、触診できる</li> </ol>		
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢) (下肢・体幹) MADICALVIEW 日本人体解剖学(上下巻)改訂19版 南山堂 基礎運動学 第6版 医歯薬出版		
参考書			
学習評価	筆記試験及び実技試験ともに60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>①服装:Tシャツ・ハーフパンツ・運動靴等動きやすく体表の観察・触診がしやすいもの。</li> <li>②身だしなみ:髪はまとめる、つめを切る、アクセサリーははずす、ヒールのある靴は不可。</li> <li>③該当項目の解剖学ならびに触診方法(教科書)の予習は必須(始めに確認します)。</li> <li>④教科書を持参。</li> </ol> ※上記4点が守れない場合は受講できない。 ※チェックシートにて指定回数の練習を積んでいないものは形成的評価を受けることはできない。		

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション	演習・実習
2	触診の基本(手順・触り方)	演習・実習
3	ランドマーク・関節(下肢)	演習・実習
4	ランドマーク・関節(下肢)	演習・実習
5	筋・血管・靭帯(腰部・股)	演習・実習
6	筋・血管・靭帯(腰部・股)	演習・実習
7	筋・血管・靭帯(膝・足・足部)	演習・実習
8	筋・血管・靭帯(膝・足・足部)	演習・実習
9	筋・血管・靭帯(膝・足・足部)	演習・実習
10	筋・血管・靭帯(膝・足・足部)	演習・実習
11	まとめ・練習	演習・実習
12	形成的評価	演習・実習
13	形成的評価	演習・実習
14	振り返り・練習	演習・実習
15	ランドマーク・関節(体幹)	演習・実習
16	ランドマーク・関節(体幹)	演習・実習
17	筋・血管・靭帯(頸部・胸部)	演習・実習
18	ランドマーク・関節(上肢)	演習・実習
19	ランドマーク・関節(上肢)	演習・実習
20	筋・血管・靭帯(上肢帯・肩)	演習・実習
21	筋・血管・靭帯(上肢帯・肩)	演習・実習
22	筋・血管・靭帯(肘・手・手部)	演習・実習
23	筋・血管・靭帯(肘・手・手部)	演習・実習
24	筋・血管・靭帯(肘・手・手部)	演習・実習
25	筋・血管・靭帯(肘・手・手部)	演習・実習
26	まとめ・練習	演習・実習
27	形成的評価	演習・実習
28	形成的評価	演習・実習
29	振り返り・練習	演習・実習
30	まとめ・練習	演習・実習

## 講義要項

科目	解剖見学実習	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・実習1単位・45時間
概要	<p>骨関節系において細胞、筋、骨、関節の構造と機能を学んだ。                  神経系において中枢神経系と末梢神経系、感覚器、口腔・咽頭と発声器官の各構造と各機能、および嚥下機能を学んだ。                  内臓諸器官系において呼吸器系、循環器系、脈管系、消化器系、内分泌系、泌尿生殖器系の各構造と各機能、血液の機能と免疫機能、体温調節機構等を学んだ。                  この実習では御献体を通じて位置関係や構造を立体的に捉えることを目的としている。</p>		
目標	<p>1. 前期で学習した解剖学の知識と事前学習をもとに、教科書では確認しにくい事項を中心に学習する                  ※多臓器との位置関係・特徴、神経・脈管の入り込み方、筋・腱・骨の連結、表層・深層の位置関係等を説明できる                  2. 御献体を通じ、人の体をあずかる医療従事者であるという自覚を持った行動ができる</p>		
教科書	日本人体解剖学 改訂19版 南山堂		
参考書	基礎運動学 第6版 補訂 医歯薬出版		
学習評価	事前セミナー、実習参加、事後セミナーを総合的に評価し、合格とする(平常の学習態度及び出席状況等を考慮する)。		
備考			

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	頭頸部・脊柱・四肢の骨格筋の起始と停止・走行・作用・支配神経・髄節 骨4)	演習・実習
2	断層解剖: 四肢の横断面と骨格筋・骨・末梢神経・血管の位置関係 骨6)	演習・実習
3	中枢神経系の区分、構造、主要上行路、下行路 神1)	演習・実習
4	末梢神経系(体性神経系と自律神経系)の区分と構造、脳神経の種類 神2)	演習・実習
5	皮膚、外耳・内耳・中耳、眼球・副眼器・網膜、口腔咽頭、発声器の各構造 神3)	演習・実習
6	断層解剖: 脳・脊髄の横断面と位置 神4)	演習・実習
7	心臓と動脈系、静脈系、リンパ系の構造 内1)	演習・実習
8	肺と呼吸器系の構造 内2)	演習・実習
9	肝臓と胆嚢、消化器系の構造 内3)	演習・実習
10	泌尿器系・生殖器系の構造 内4)	演習・実習
11	内分泌系の構造と構成、断層解剖(体幹横断面と内臓諸器官の位置関係)内5)	演習・実習
12	骨関節系デモンストレーション	演習・実習
13	内臓諸器官系デモンストレーション	演習・実習
14	内臓諸器官系デモンストレーション	演習・実習
15	神経系デモンストレーション	演習・実習
16	神経系デモンストレーション	演習・実習
17	人体の構造実習1: 骨学実習と筋肉学実習(標本または模型)骨7)骨8)	演習・実習
18	人体の構造実習2: 体表解剖: 心臓、主要な動脈・末梢神経・骨格筋・骨・関節・靭帯の触診	演習・実習
19	神経系の構造実習: 神経系、感覚器、口腔・咽頭、発声器官の各実習(模型等使用) 神5)	演習・実習
20	内臓諸器官系の構造実習: 内臓諸器官(模型等使用)など 内6)	演習・実習
21	骨関節系振り返り	演習・実習
22	骨関節系振り返り	演習・実習
23	内臓諸器官系振り返り	演習・実習
24	内臓諸器官系振り返り	演習・実習
25	神経系振り返り	演習・実習
26	神経系振り返り	演習・実習
27	情意領域(理学・作業療法に求められる倫理と哲学)	演習・実習
28	情意領域(理学・作業療法に求められる倫理と哲学)	演習・実習

## 講義要項

科目	植物生理学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	<p>生理学は、人体の構造がどのように働いて生命を維持しているかを学ぶ学問で、解剖学と対をなしており、病気を理解する為にも必要な基礎学問である。 植物生理学では、人体の「植物性器官」である循環、呼吸、消化、内分泌、排泄の諸器官の働きについて学ぶ。</p>		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 血液の成分とその働きについて説明できる</li> <li>2. 心臓の構造とその働き、心電図について説明できる</li> <li>3. 血管の構造と循環のしくみについて説明できる</li> <li>4. 呼吸器の働き、ガス交換とガス運搬のメカニズムについて説明できる</li> <li>5. 食物の消化・吸収のメカニズムと、その調節について説明できる</li> <li>6. 内分泌器官、ホルモンの種類と働きについて説明できる</li> <li>7. 腎臓における濾過と再吸収のメカニズムおよび酸塩基平衡について説明できる</li> <li>8. 栄養素の代謝、熱発生と体温調節のメカニズムについて説明できる</li> </ol>		
教科書	生理学テキスト第7版 大地陸男著 文光堂		
参考書	サイエンスビュー生物総合資料 実教出版 ギャノン生理学 原書第24版 丸善 標準生理学 第8版 医学書院		
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	血液	講義
2	血液	講義
3	心臓	講義
4	心臓	講義
5	循環	講義
6	循環	講義
7	呼吸	講義
8	呼吸	講義
9	消化と吸収	講義
10	消化と吸収	講義
11	内分泌と生殖	講義
12	内分泌と生殖	講義
13	腎機能と酸塩基平衡	講義
14	腎機能と酸塩基平衡	講義
15	代謝と体温	講義

## 講義要項

科目	動物生理学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・講義1単位・30時間
概要	生理学は、人体の構造がどのように働いて生命を維持しているかを学ぶ学問で、解剖学と対をなしており、病気を理解する為にも必要な基礎学問である。 動物生理学では、人の運動、行動を制御する神経、筋運動、感覚という「動物性器官」の機能について学ぶ。		
目標	1. 興奮発生と伝導のメカニズムについて説明できる 2. 筋肉の構造と筋収縮のメカニズム、筋肉のエネルギー利用について説明できる 3. シナプス伝達のメカニズムについて説明できる 4. 自律神経系の構築と臓器支配の様相について説明できる 5. 運動系の制御メカニズムについて説明できる 6. 感覚の種類と感覚の発生メカニズムについて説明できる 7. 脳の構造を理解し、高次神経活動について説明できる		
教科書	生理学テキスト第7版 大地陸男著 文光堂		
参考書	よくわかる生理学の基礎 メディカルサイエンス 病状の基礎からわかる病態整理 メディカルサイエンス ギャノン生理学 原書22版 丸善 標準生理学 第7版 医学書院		
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	活動電位、イオンチャネル①	講義
2	活動電位、イオンチャネル②	講義
3	骨格筋の収縮①	講義
4	骨格筋の収縮②	講義
5	シナプス伝達	講義
6	自律神経系	講義
7	運動系①	講義
8	運動系②	講義
9	体性感覚①	講義
10	体性感覚②	講義
11	味覚、嗅覚	講義
12	聴覚、前庭感覚	講義
13	視覚	講義
14	脳の統合機能①	講義
15	脳の統合機能②	講義





## 講義要項

科目	運動学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・講義2単位・60時間
概要	運動学の基本をなす解剖学・生理学を踏襲した上で、身体運動・生体力学・生体構造と機能・動作姿勢・運動発達・運動学習について学ぶ。		
目標	運動学について知識を深め、理学療法の実践に繋げることができる。 1. 運動学とは何か説明できる 2. 生体力学（バイオメカニクス）の基礎を説明できる 3. 生体の構造と機能が説明できる 4. 四肢と体幹の運動が説明できる 5. 姿勢とその制御について説明できる 6. 歩行における運動について説明できる 7. 姿勢・動作を観察・分析する方法が説明できる 8. 運動発達について説明できる 9. 運動学習について説明できる 10. 運動学的な用語を理解し使用することができる 11. 運動学の知識を理学療法に繋げて思考することができる		
教科書	基礎運動学 医歯薬出版 筋骨格系のキネシオロジー 医歯薬出版 日本人体解剖学 南山堂 機能解剖学的触診技術（上肢・下肢体幹）		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考	予習・復習を必須とし、規定の予習・事前課題を行ってこないものは講義に参加する権利はない。 グループワークを主体とするため、ワーク内で発言をしないものは講義に参加する権利はない。		

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション・解剖学・生理学の確認・運動学とは	講義
2	運動学の基礎（関節運動・筋収縮）	講義
3	生体力学の基礎（生体力学とは・力学の確認・身体運動の面と軸）	講義
4	生体力学の基礎（重心・支持基底面・COG・COP・身体とてこ・重力・床反力・関節モーメント等）	講義
5	生体力学の基礎（重心・支持基底面・COG・COP・身体とてこ・重力・床反力・関節モーメント等）	講義
6	運動器の構造と機能・神経系・運動の中樞神経機構（反射運動・脊髄反射・姿勢反射と立ち直り反応）	講義
7	運動器の構造と機能・神経系・運動の中樞神経機構（反射運動・脊髄反射・姿勢反射と立ち直り反応）	講義
8	形成的評価 まとめ	講義
9	上肢帯と上肢の運動	講義
10	上肢帯と上肢の運動	講義
11	上肢帯と上肢の運動	講義
12	上肢帯と上肢の運動	講義
13	下肢帯と下肢の運動	講義
14	下肢帯と下肢の運動	講義
15	下肢帯と下肢の運動	講義
16	下肢帯と下肢の運動	講義
17	体幹の運動	講義
18	体幹の運動	講義
19	体幹の運動	講義
20	運動連鎖	講義
21	形成的評価 まとめ	講義
22	姿勢とその制御	講義
23	姿勢とその制御	講義
24	歩行（歩行速度・歩幅・歩隔・重複歩行距離・歩行率・歩行周期・相・重心・関節運動・筋活動・CPG等）	講義
25	歩行（歩行速度・歩幅・歩隔・重複歩行距離・歩行率・歩行周期・相・重心・関節運動・筋活動・CPG等）	講義
26	姿勢動作の観察・分析	講義
27	運動発達	講義
28	運動学習理論	講義
29	運動学習理論	講義
30	形成的評価 まとめ	講義



## 講義要項

科目	人間発達学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・講義1単位・30時間
概要	国家試験(「人間発達学」分野)に必要な知識を身に付けつつ、心理学を探究することを目指す。		
目標	1. 胎生期から児童期の発達を理解し説明ができる 2. 学童期および思春期の発達を理解し説明ができる 3. 青年期から老年期の発達ならびに変化を理解し説明ができる 4. 障害児の発達ならびに検査法を理解し説明ができる		
教科書	リハビリテーションのための人間発達学 メディカルプレス		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション・発達の定義	講義
2	胎児期の発達(受精から出産まで) 身体機能の発達(体格・骨・歯)	講義
3	運動機能の発達(反射・反応) 認知精神機能の発達(知能・パーソナリティ)	講義
4	小児期(乳児～児童期)の粗大運動の発達	講義
5	小児期(乳児～児童期)の微細運動の発達	講義
6	小児期(乳児～児童期)の言語の発達①	講義
7	小児期(乳児～児童期)の言語の発達②	講義
8	小児期(乳児～児童期)の心理社会的発達①	講義
9	小児期(乳児～児童期)の心理社会的発達②	講義
10	学童期および思春期の発達(体格・性徴・心理・社会) 青年期の発達(体格・性徴・心理・社会)	講義
11	成人期の変化(身体構造・生理機能・心理・社会) 高齢期の変化(身体構造・生理機能・心理・社会)	講義
12	発達障害・検査法	講義
13	試験対策①	講義
14	試験対策②	講義
15	まとめ	講義

## 講義要項

科目	病理学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	病理学とは正常と病気について形態的な違いを比較し、病気の本態を理解する学問である。 本講義では、臓器、組織、細胞レベルの画像を用い、病気の本態を学習する。 また、形態的变化と機能、病気の成り立ちについて、病理学的な考え方を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主な病気の定義を説明できる</li> <li>2. 主な病気の成り立ちや特徴について説明できる</li> <li>3. 病理学を用いて病気を理解する方法を身につける</li> </ol>		
教科書	入門病理学 南山堂		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	病気と病理学 基礎知識	講義
2	退行変性病変1(萎縮・変性)	講義
3	退行変性病変2(壊死・その他)	講義
4	進行性病変1(肥大・過形成)	講義
5	進行性病変2(化生・再生・その他)	講義
6	腫瘍1(概要)	講義
7	腫瘍2(一般臓器・小児腫瘍・脳腫瘍)	講義
8	循環障害1(血栓・塞栓・梗塞・先天異常)	講義
9	循環障害2(虚血・充血・出血・浮腫)	講義
10	循環障害3(うっ血と副経路・リンパ) 中枢神経の病理	講義
11	炎症1(概要)	講義
12	炎症2(滲出性炎・肉芽腫性炎)	講義
13	免疫1(免疫反応)	講義
14	免疫2(免疫の異常)	講義
15	まとめ	講義

## 講義要項

科目	臨床心理学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・講義1単位・30時間
概要	理学療法・作業療法対象者の心理的特徴や心的作用、その検査法および心理療法について修得する。		
目標	1. 臨床心理学の歴史・全体像について知っている 2. ライフサイクルにおける発達課題について説明できる 3. 障害受容の過程について説明できる 4. 防衛機制について説明できる 5. 防衛機制について説明できる 6. 心理療法の種類とその方法について説明できる		
教科書	よくわかる臨床心理学 下山晴彦編 ミネルヴァ書房		
参考書	心理療法ハンドブック 乾 吉佑・亀口 憲治・東山 紘久・氏原 寛・成田 善弘 編 創元社		
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	臨床心理学とはなにか	講義
2	臨床心理学の基礎① 一般心理学と精神分析、分析心理学	講義
3	臨床心理学の基礎② ライフサイクルに応じた発達課題と心的問題	講義
4	臨床心理学の基礎③ 障害者心理と障害受容、心の構造と防衛機制	講義
5	心理アセスメント① 知能検査、質問紙法	講義
6	心理アセスメント② 投影法	講義
7	心理療法① 総論	講義
8	心理療法② 精神分析的な心理療法	講義
9	心理療法③ ユング派の心理療法	講義
10	心理療法④ クライアント中心療法	講義
11	心理療法⑤ 認知療法と行動療法	講義
12	心理療法⑥ 集団療法	講義
13	心理療法⑦ 芸術療法と遊戯療法	講義
14	心理療法⑧ ロールプレイ	講義
15	まとめ	講義

## 講義要項

科目	内科学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・講義1単位・30時間
概要	内科系の主な疾患について、解剖学、生理学とのつながり(病態整理)を中心に学ぶ。 リハビリテーション対象疾患を中心に、詳細な病態と主な評価、検査、治療、リスク管理を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内科系の障害を生じる疾患や症候群の病態と症状が説明できる</li> <li>2. 内科系の障害を生じる疾患や症候群の疫学、予後が説明できる</li> <li>3. 内科系の障害を生じる疾患や症候群の検査結果を説明、解釈できる</li> <li>4. 内科系の障害を生じる疾患や症候群の一般的治療が説明できる</li> <li>5. リハビリテーション実施にあたり、内科系の疾患や症候群にともなうリスク、留意事項が説明できる</li> </ol>		
教科書	標準理学療法・作業療法学 内科学 医学書院		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	循環器疾患①(心筋梗塞、狭心症、弁疾患、心筋症、不整脈)	講義
2	循環器疾患②(心筋梗塞、狭心症、弁疾患、心筋症、不整脈)	講義
3	循環器疾患③(動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、バージャー病、高血圧、深部静脈血栓)	講義
4	呼吸器疾患①(呼吸不全 I 型、II 型、急性と慢性)	講義
5	呼吸器疾患②(閉塞性肺疾患、慢性気管支炎、肺気腫、喘息)	講義
6	呼吸器疾患③(拘束性肺疾患、間質性肺炎、肺気腫、喘息)	講義
7	消化器疾患①(消化器出血、癌、胃潰瘍、潰瘍性大腸炎)	講義
8	消化器疾患②(腸閉塞、肝炎、肝硬変)	講義
9	代謝・内分泌疾患①(糖尿病、メタボリックシンドローム)	講義
10	代謝・内分泌疾患②(糖尿病、メタボリックシンドローム)	講義
11	血液・造血器疾患	講義
12	腎・泌尿器疾患①(腎不全、腎炎、ネフローゼ症候群)	講義
13	腎・泌尿器疾患②(排尿障害、尿路結石、尿路感染症)	講義
14	免疫疾患、感染症疾患、中毒①(膠原病、リウマチ、ベーチェット病、シェーグレン症候群、アレルギー)	講義
15	免疫疾患、感染症疾患、中毒②(細菌、梅毒、ウイルス、院内感染、寄生虫)	講義

## 講義要項

科目	整形外科	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・講義1単位・30時間
概要	骨関節障害を生じる主な疾患の病態、症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療、リスク、および理学療法への展開(リスク管理含む)について学ぶ。		
目標	1. 骨関節障害を生じる主な疾患名を説明できる 2. 骨関節障害を生じる主な疾患の病態、病態、症状、疫学、予後、経過、評価・検査、一般的治療、リスクを説明できる 3. 骨関節障害を生じる主な疾患の病態整理から理学療法への展開(リスク管理含む)を説明できる		
教科書	標準整形外科 医学書院		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	変形性関節症	講義
2	骨折および脱臼	講義
3	関節リウマチとその近縁疾患	講義
4	スポーツ障害	講義
5	脊椎疾患(椎間板ヘルニア、腰痛、頸部痛などを含む)	講義
6	脊髄損傷	講義
7	切断	講義
8	肩関節周囲炎および腱板損傷	講義
9	絞扼性末梢神経障害(胸郭出口症候群など)	講義
10	慢性疼痛疾患	講義
11	骨粗鬆症	講義
12	骨端部疾患	講義
13	先天性疾患(先天性股関節脱臼など)	講義
14	骨・軟部腫瘍	講義
15	熱傷	講義

## 講義要項

科目	神経内科学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・講義1単位・30時間
概要	神経障害を生じる主な疾患の病態、症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療、リスク、および理学療法への展開(リスク管理含む)について学ぶ。		
目標	1. 神経障害を生じる主な疾患名を説明できる 2. 神経障害を生じる主な疾患の病態、症状、疫学、予後、経過、評価・検査、一般的治療、リスクを説明できる 3. 神経障害を生じる主な疾患の病態整理から理学療法への展開(リスク管理含む)を説明できる		
教科書	標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 医学書院 病気がみえる 脳・神経 メディックメディア		
参考書	ベッドサイドの神経の診かた 南山堂		
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	神経学的診断法(神経学的診断と評価・神経学的検査法) 神経症候学(運動麻痺・錐体路徴候・筋萎縮)	講義
2	神経症候学(錐体外路徴候・不随意運動・運動失調・感覚障害)	講義
3	神経症候学(高次脳機能障害・構音障害・嚥下障害)	講義
4	脳血管障害(脳出血・脳梗塞・くも膜下出血・脳外傷)	講義
5	脳血管障害(脳出血・脳梗塞・くも膜下出血・脳外傷)	講義
6	脳血管障害(脳出血・脳梗塞・くも膜下出血・脳外傷)	講義
7	感染・炎症性疾患(髄膜炎・脳腫瘍・脳炎)	講義
8	変性疾患(パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症・認知症)	講義
9	変性疾患(パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症・認知症)	講義
10	脱髄疾患(多発性硬化症・ギランバレー症候群・正常圧水頭症)	講義
11	腫瘍(脳腫瘍・脊髄腫瘍)	講義
12	末梢神経・筋疾患(多発神経炎・重症筋無力症、多発筋炎、筋緊張症)	講義
13	てんかん・頭痛	講義
14	感覚器系障害 視覚障害(白内障・緑内障)聴覚障害(難聴)平衡感覚障害	講義
15	まとめ	講義



## 講義要項

科目	精神医学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・講義1単位・30時間
概要	主な精神障害および疾病の症状とそれに対する一般的な治療について習得する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神医学的症候の種類とその内容について説明できる</li> <li>2. 代表的な精神科治療(薬物療法など)について説明できる</li> <li>3. 各精神疾患の特徴(原因・病態・経過など)を説明できる</li> <li>4. 各精神疾患の特徴を踏まえた上での一般的な治療・対処法について説明できる</li> <li>5. ライフサイクルにおける各期の精神障害の特徴を知っている</li> <li>6. 精神医学の歴史や関連する法律・制度について説明できる</li> </ol>		
教科書	標準理療学療法学・作業療法学：専門基礎分野 精神医学 上野武治編集 医学書院		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

### 講義内容：

回数	内容	学習法
1	精神医学の歴史 精神科領域に関連する法律・制度	講義
2	ライフサイクル(小児期、青年期、成人期、老年期)における精神障害の特徴	講義
3	精神医学的症候について	講義
4	精神医学的症候について	講義
5	統合失調症の特徴と治療	講義
6	統合失調症の特徴と治療	講義
7	気分(感情)障害(躁うつ病・うつ病)の特徴と治療	講義
8	気分(感情)障害(躁うつ病・うつ病)の特徴と治療	講義
9	器質的精神障害(認知症など)の特徴と治療	講義
10	精神症性障害(不安神経症・パニック障害など)の特徴と治療	講義
11	精神作用物質(アルコール・薬物)使用による精神および行動の障害の特徴と治療	講義
12	摂食障害・人格障害の特徴と治療	講義
13	てんかん・適応障害・PTSDの特徴と治療	講義
14	精神遅滞・発達障害の特徴と治療	講義
15	まとめ	講義

## 講義要項

科目	生化学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・講義1単位・30時間
概要	細菌やウイルス、薬物、疾病などが、体内にどのような影響を及ぼすのかを学ぶ。 生体内のメカニズムと反応を知るとともに、臨床検査結果(数値)と合わせて学習する。		
目標	生理・解剖学と病理学の知識を生かし、生体の異常反応のメカニズムと検査結果を統合して理解することが出来る。 生体の症状とあわせてイメージすることが出来る。 1. 正常な生体反応を理解している 2. 代表的な異常反応を、検査データから判断することができる		
教科書	系統看護学講座 別巻6 臨床検査 奈良信雄編 医学書院		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	総論(臨床検査と生化学)	講義
2	代謝とは(生化学の基礎知識)	講義
3	検査データ(血液一般)	講義
4	検査データ(血液凝固)	講義
5	検査データ(糖代謝と糖尿病)	講義
6	検査データ(脂質代謝と脂質異常症)	講義
7	検査データ(蛋白質、核酸の代謝と代謝異常)	講義
8	検査データ(心機能 心電図の読み方)	講義
9	検査データ(呼吸機能 呼吸器疾患と検査値)	講義
10	検査データ(pH 正常値と異常値)	講義
11	検査データ(中枢神経系 脳卒中で留意すべきデータ)	講義
12	検査データ(免疫の基礎知識)	講義
13	検査データ(感染症と標準予防策について)	講義
14	検査データ(リウマチ、自己免疫について)	講義
15	まとめ	講義

## 講義要項

科目	小児科学	担当講師	
対象学年	第2学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	臨床で見られる小児科領域における各種疾患、症状、リハビリテーションを含めた治療法について、基本的な知識を学習する。		
目標	小児領域における、代表的な疾患、ならびに症状、治療法について説明できる。		
教科書	標準理学療法作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第3版 医学書院		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	骨・関節疾患(先天性股関節脱臼・小児骨折・くる病など)	講義
2	循環器疾患	講義
3	呼吸器疾患	講義
4	消化器疾患	講義
5	内分泌・代謝疾患	講義
6	血液疾患・悪性腫瘍性疾患	講義
7	免疫・アレルギー・喘息	講義
8	腎・泌尿器系・生殖器疾患	講義
9	急性疾患(SIDSなど)と感染症(脳炎・髄膜炎・その他細菌／ウイルス性)	講義
10	中枢神経先天奇形(無脳症・二分脊髄・小脳症・水頭症)・てんかん	講義
11	中枢神経系疾患①脳性麻痺・重症心身障害児	講義
12	中枢神経系疾患②筋ジストロフィー	講義
13	知的障害を伴う疾患①(ダウン症・知的障害／精神遅滞・ADHDなど)	講義
14	知的障害を伴う疾患②(学習障害(LD)・自閉症／広汎性発達障害／アスペルガー)	講義
15	心身医学疾患(チック・不登校・虐待)	講義

## 講義要項

科目	老年医学	担当講師	
対象学年	第2学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	老化に伴う機能・心理の変化と疾病の関係、高齢者をめぐる社会的問題などを総合的に学習する。		
目標	1. 老化について説明できる 2. 加齢に伴う変化について説明できる 3. 老年症候群について説明できる 4. 高齢者のリハビリテーションの現状が説明できる		
教科書	標準理学療法学・作業療法学 老年学 第4版 大内尉義編集 医学書院		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	総論(高齢者および老化の定義・日本の高齢化の現状)	講義
2	老年期の健康と栄養	講義
3	加齢による生理機能・運動機能・精神心理面の変化	講義
4	老年症候群(概念および代表的な老年症候群)1	講義
5	老年症候群(概念および代表的な老年症候群)2	講義
6	老年期における精神疾患、睡眠障害	講義
7	加齢に伴う生理機能の変化とその疾患(循環器・呼吸器)	講義
8	加齢に伴う生理機能の変化とその疾患(神経系・感覚器)	講義
9	加齢に伴う生理機能の変化とその疾患(内分泌・代謝)	講義
10	加齢に伴う生理機能の変化とその疾患(消化器)	講義
11	加齢に伴う生理機能の変化とその疾患(免疫・皮膚疾患)	講義
12	加齢に伴う運動機能の変化とその疾患1	講義
13	加齢に伴う運動機能の変化とその疾患2	講義
14	高齢者のリハビリテーション1	講義
15	高齢者のリハビリテーション2	講義

## 講義要項

科目	一般臨床医学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・講義1単位・30時間
概要	一般的な疾患の病態、症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療について学ぶ。		
目標	1. 各疾患の病態、症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療について知っている 2. 各疾患のリハビリテーション実施時のリスクを説明できる		
教科書	PT・OTのための一般臨床医学第2版 医歯薬出版		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	外科総論1	講義
2	外科総論2	講義
3	脳神経外科総論1	講義
4	脳神経外科総論2	講義
5	画像診断総論1(X線、CT)	講義
6	画像診断総論2(MRI)	講義
7	耳鼻咽喉科疾患	講義
8	眼疾患	講義
9	皮膚疾患	講義
10	泌尿器・生殖器疾患	講義
11	婦人科・産科疾患1	講義
12	婦人科・産科疾患2	講義
13	臨床で起こりうる現象①	講義
14	臨床で起こりうる現象②	講義
15	救命救急医療総論	演習・実習

## 講義要項

科目	予防理学療法学	担当講師	
対象学年	第2学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	予防理学療法の各領域における理学療法士としての役割を学ぶとともに、予防の理論と具体的な方法論を学ぶ。 特に地域包括ケアシステムにおける介護予防について学ぶ。		
目標	1. 予防とは何か説明できる 2. 予防分野における理学療法士の役割を説明できる 3. 予防理学療法の領域とその概要を説明できる 4. 予防の理論、方法論を説明できる 5. 健康増進、生活習慣病予防、疾病予防、三次予防について説明できる 6. 産業保健領域、スポーツ障害における予防について知っている 7. 介護予防に関する理学療法について説明できる		
教科書	健康増進と介護予防 三輪書店 国民衛生の動向 厚生労働統計協会		
参考書	介護予防に関する文献・資料 (理学療法士協会、介護予防マニュアル改定委員会、理学療法ジャーナル等)		
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、提出課題、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考	予習・復習を必須とし、規定の予習・事前課題を行ってこないものは講義に参加する権利はない。 グループワークを主体とするため、ワーク内で発言をしないものは講義に参加する権利はない。		

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	予防とは(健康寿命 一次・二次・三次予防 理学療法士の役割)	講義
2	予防理学療法の領域と概要 (健康増進、生活習慣病予防、疾病予防、産業保健領域、スポーツ障害、介護予防、三次予防等)	
3	健康増進、生活習慣病予防、疾病予防について	講義
4		
5	産業保健領域における予防について (腰痛、メタボリックシンドローム、メンタルヘルス等)	講義
6	スポーツ障害の予防について	講義
7	介護予防と理学療法 (介護予防とは 目的・必要性 介護予防における理学療法士の役割)	講義
8	介護予防と理学療法 (地域包括ケアシステムと介護予防 一次予防事業と二次予防事業)	講義
9	介護予防と理学療法 ～介護予防の理論と具体的な介入方法～ 介護予防マニュアル:運動器の機能、栄養、口腔機能、閉じこもり、認知機能、うつ 日本理学療法士協会:認知機能、転倒、関節痛、呼吸器疾患、がん	講義
10		
11		
12	介護予防と理学療法 ケーススタディ (介護予防プラン・転倒予防事業の立案等)	講義
13	介護予防と理学療法 ケーススタディ 発表・レポート作成 (介護予防プラン・転倒予防事業の立案等)	講義
14	三次予防 (疾病治療、重症化予防、合併症発症予防、再発予防)	講義
15	まとめ	講義

## 講義要項

科目	基礎臨床医学	担当講師	
対象学年	第2学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	各臨床医学の中でも特に理学療法分野と関わりの深い臨床医学について学びを深め、代表的な疾患の病態や障害を理解することで、評価や治療につなげる。		
目標	代表的な疾患について。 1. 病態(定義、疫学、病態生理、成因、併存疾患、予後等)について説明できる 2. 診断(診断基準(分類など含む)、臨床所見(症状、病態運動)、検査等)について説明できる 3. 治療(管理目標、保存療法、手術療法等)について説明できる 4. 疾患から想起される理学療法評価項目の列挙ができる 5. 疾患から想起される理学療法治療内容と禁忌事項が列挙できる		
教科書			
参考書			
学習評価	提出課題及び筆記試験合わせて60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	脳血管障害	講義
2	高次脳機能障害、認知症	講義
3	脳性麻痺	講義
4	パーキンソン病	講義
5	筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、脊髄小脳変性症	講義
6	COPD、肺炎、肺水腫、肺結核 ①	講義
7	COPD、肺炎、肺水腫、肺結核 ②	講義
8	心不全、虚血性心疾患、動脈疾患(ASO、バージャー病) ①	講義
9	心不全、虚血性心疾患、動脈疾患(ASO、バージャー病) ②	講義
10	糖尿病(合併症含む)、慢性腎不全、がん ①	講義
11	糖尿病(合併症含む)、慢性腎不全、がん ②	講義
12	関節リウマチ	講義
13	大腿骨頸部骨折	講義
14	脊髄損傷	講義
15	変形性関節症	講義

## 講義要項

科目	リハビリテーション概論	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	リハビリテーションの基本理念を理解し、リハビリテーション医学の基礎を学ぶ。 チームアプローチの大切さを理解し、リハビリテーションに関わる専門職の役割・専門性・リハビリテーションの展開について学ぶ。 さらにリハビリテーションにおける対象疾患と障害について学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションの歴史を知り、基本理念・定義・関連法規について説明ができる</li> <li>2. 疾病と障害構造について概要が説明できる</li> <li>3. チームアプローチの必要性を理解しリハビリテーション関連職種の名称と具体的な役割が説明できる</li> <li>4. 病期別、疾患別にリハビリテーションの概要を説明できる</li> <li>5. 高齢者・障害者のリスク管理について説明ができる</li> <li>6. リハビリテーションにおける評価の概要が説明できる</li> <li>7. リハビリテーションの対象となる代表的な疾患を列挙し、主な機能障害について説明できる</li> </ol>		
教科書	セラピストのための概説リハビリテーション 文光堂		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考	予習・復習を必須とし、規定の予習・事前課題を行ってこないものは講義に参加する権利はない。 グループワークを主体とするため、ワーク内で発言をしないものは講義に参加する権利はない。		

### 講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション・リハビリテーションの定義・概念・歴史	講義
2	疾病と障害構造(ICIDH～ICF) 1	講義
3	疾病と障害構造(ICIDH～ICF) 2	講義
4	疾病と障害構造(ICIDH～ICF) 3・障害受容	講義
5	リハビリテーション専門職・チームアプローチ・関連法規・職域 1	講義
6	リハビリテーション専門職・チームアプローチ・関連法規・職域 2	講義
7	リハビリテーション専門職・チームアプローチ・関連法規・職域 3	講義
8	病期別・疾患別リハビリテーションの考え方 高齢者・障害者のリスク管理	講義
9	リハビリテーションにおける評価 1	講義
10	リハビリテーションにおける評価 2	講義
11	リハビリテーションの対象疾患・代表的な機能障害 1	講義
12	リハビリテーションの対象疾患・代表的な機能障害 2	講義
13	リハビリテーションの対象疾患・代表的な機能障害 3	講義
14	リハビリテーションの対象疾患・代表的な機能障害 4	講義
15	まとめ	講義



## 講義要項

科目	保健医療福祉制度概論	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	理学療法士として現在の社会保障制度を理解し活用していくことは、対象者の生活を考えていく上で重要である。従ってこの授業では社会保障制度の概要を理解するとともに、理学療法士に特に関わりの深い医療保険法・介護保険法・社会福祉制度について、グループ学習および発表を通して理学療法の対象者の生活に応じて活用できることを目的とする。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法士が社会保障を学ぶ必要性を説明できる</li> <li>2. 医療保険・介護保険・社会福祉制度それぞれの目的と内容を説明できる</li> <li>3. 理学療法を実施する上で関係してくる法制度を列挙できる</li> <li>4. 社会保障の中で理学療法士が関わる施設・サービスを列挙できる</li> <li>5. ケースを通じて対象者の生活に応じた社会保障サービスを選択することができる</li> </ol>		
教科書	国民衛生の動向（厚生統計協会） はじめての社会保障（有斐閣アルマ）		
参考書	適宜資料を配布		
学習評価	提出課題及び筆記試験合わせて60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考	必ず予習をして授業に臨むこと。予習を行わず講義に参加することは自分自身のためにならないばかりではなく、グループワーク等他の人の迷惑となる。 お互いの様々な考え方を学ぶことによって学習効果が高まる。自分なりの予習内容や考えをもとに積極的に発言すること。講師あるいは他の人の意見を黙って聞くだけという姿勢はルール違反である。		

### 講義内容：

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション 総論① ケース提示・検討	講義
2	保健医療福祉制度 総論② 保険の仕組みについて	講義
3	医療保険制度(概要説明 キーワード提示 )	講義
4	医療保険制度(グループにて調べ学習・情報の共有)	講義
5	医療保険制度(全体発表およびケース検討)	講義
6	介護保険制度(概要説明 キーワード提示 )	講義
7	介護保険制度(グループにて調べ学習・情報の共有)	講義
8	介護保険制度(全体発表およびケース検討)	講義
9	福祉制度・その他(概要説明 キーワード提示 )	講義
10	福祉制度・その他(グループにて調べ学習・情報の共有)	講義
11	福祉制度・その他(全体発表およびケース検討)	講義
12	まとめ①(キーワード・ケースの確認) 地域包括ケアシステムの概要	講義
13	ケーススタディ 情報整理 レポート作成	講義
14	ケーススタディ 発表 意見交換・情報の共有	講義
15	まとめ 総括	講義